

# 敦賀港コンテナ上屋 個別施設計画

令和3年3月

敦賀市産業経済部商工貿易振興課

## 目次

---

1	策定の目的と位置付け.....	1
	（1）目的.....	1
	（2）本計画の位置付け.....	1
2	計画期間と対象施設.....	2
	（1）計画期間.....	2
	（2）対象施設.....	2
3	現状と課題.....	2
4	基本的な考え方.....	3
5	施設の状態.....	3
6	対策内容と費用.....	4
	（1）対策内容と実施時期.....	4
	（2）概算費用.....	4

- ・ 本計画は、特に断りがない場合、令和元（2019）年度末時点のデータに基づき作成しています。

## 1 策定の目的と位置付け

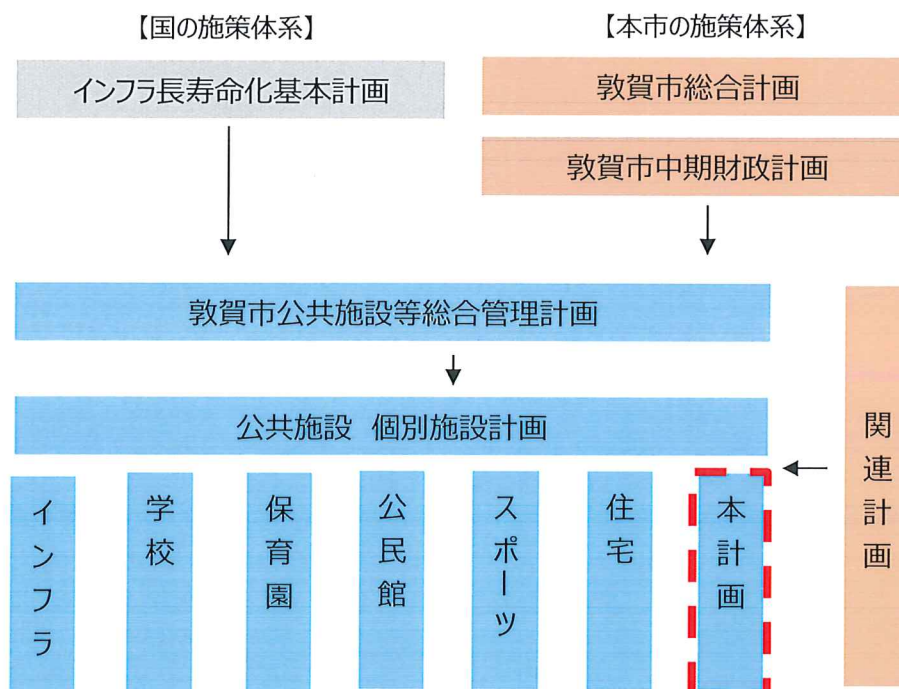
### (1) 目的

本計画は、平成29（2017）1月に策定された敦賀市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画として、敦賀港コンテナ上屋の管理に関する具体的な対応方針を明らかにすることを目的としています。

### (2) 本計画の位置付け

本計画は、敦賀市公共施設等総合管理計画の下位計画となります。

図表1 本計画の位置付け



## 2 計画期間と対象施設

---

### (1) 計画期間

本計画の計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とします。

なお、本計画は、敦賀市公共施設等総合管理計画の改訂や社会環境等の変化等を踏まえ、適時見直しを行います。

### (2) 対象施設

本計画の対象施設は、敦賀港コンテナ上屋です。

なお、同施設は、敦賀市公共施設等総合管理計画において「産業系施設」に区分されています。

図表2 対象施設概要

施設名	地区	運営形態	延床面積	代表建築年度	耐用年数	経過年数	残耐用年数
敦賀港コンテナ上屋	西	直営	1,748	2001	31	18	13

## 3 現状と課題

---

### 【現状】

上屋は、荷揚げした貨物や船に積み込む貨物の荷捌きや一時保管を行うための施設です。敦賀港コンテナ上屋は、輸出入された海上コンテナ貨物の荷捌き、積み降ろし、保管を行うための施設であり、コンテナ貨物の増大ひいては定期コンテナ航路の拡大を目的に、敦賀港の港湾内に建設されている8施設の上屋の一つです。

### 【課題】

建築から18年経過した施設であり、これまでも老朽化や塩害による修繕や補修を行いながら機能の維持に努めてきています。

現状は建物自体には特段課題はありません。

## 4 基本的な考え方

---

敦賀港コンテナ上屋は、敦賀港で取り扱われる輸出入貨物の一時保管や荷捌きを行う施設として今後も同機能を存続します。

また、建物自体は、同機能を長期に渡り安定して提供できるよう、劣化箇所の有無や兆候を早期に把握し対応する予防保全を導入することで、長寿命化を図ります。

## 5 施設の状態

---

敦賀市では、建築基準法による法令点検と、「敦賀市公共施設簡易点検マニュアル」に基づく年1回の目視点検を行っており、その結果は以下のとおりです。

図表3 法令点検及び簡易目視点検結果

施設名	建築物	設備その他
敦賀港コンテナ上屋	・部分的に基礎コンクリートに、鉄筋露出やひび割れあり	・排煙設備について、排煙窓が施錠に開放できない箇所あり

今後も法令点検及び簡易目視点検により異常が発見された場合は、速やかに修繕を行います。

## 6 対策内容と費用

### (1) 対策内容と実施時期

基本的な考え方や施設の状態を踏まえた、本計画期間（10年間）における具体的な対策内容と実施時期は次のとおりです。

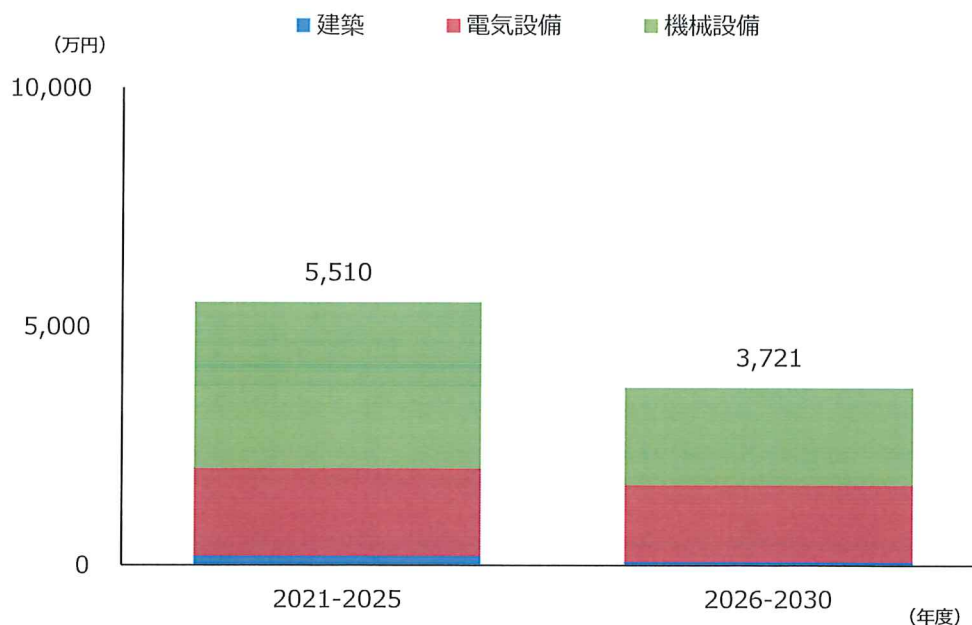
図表4 対策内容と実施時期

施設名称	方向性_建物	2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030											検討段階
		現状維持 状況により改修											
敦賀港コンテナ上屋	現状維持	現状維持 状況により改修											決定

### (2) 概算費用

本計画期間における対策内容に要する概算費用は、建築、電気設備、機械設備合わせて9,231千円を見込んでいます。ただし、この費用は今後の施設の状態、劣化診断等により変動します。

図表5 概算費用



※ 一般財団法人建築保全センター「保全マネジメントシステム (BIMMS)」の簡易ライフサイクルコスト算出機能に基づき算出。機械的な試算であり、「6 (1) 対策費用と実施時期」の内容とは連動していない